

1. 事務事業の目的・概要

| | | | |
|----------|---------------|------|--------------|
| 事務事業担当課長 | 特別支援教育課長 三島賢隆 | 電話番号 | 0852-22-5420 |
|----------|---------------|------|--------------|

| | | | |
|---------|---|----------------------------|--|
| 事務事業の名称 | 特別支援学校職業教育・就業支援事業 | | |
| 目的 | (1) 対象 | 就労を希望する高等部（専攻科を含む）の生徒 | |
| | (2) 意図 | 生徒の障がいの実態や希望に応じた一般就労の実現を図る | |
| 事業概要 | ①関係機関との連携による進路指導体制の強化 ・学校、労働局、雇用政策課、障がい福祉課等と連携し、就業支援についての協議、進路指導体制の強化を図る。 ・地域毎に、学校、ハローワーク、企業等による障がい者雇用推進体制を構築する。 ②進路担当教員による職場開拓、職場実習開拓の推進による就労先の確保。 ③外部人材等を活用した職業教育の実施。 | | |

2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 | | 年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 単位 | |
|----------|------|---------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|---|
| 1 | 指標名 | 就労希望生徒の就労割合 | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | % | |
| | 式・定義 | 就労を希望する生徒のうち、実際に就労した生徒の割合 | 取組目標値 | | | | | | |
| | | | 実績値 | 98.0 | | | | 達成率 | - |
| 2 | 指標名 | | 目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 | | 取組目標値 | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | 達成率 | - |

3. 事業費

| | 前年度実績 | 今年度計画 |
|--------------|--------|--------|
| 事業費 (b) (千円) | 11,806 | 11,592 |
| うち一般財源 (千円) | 11,806 | 11,592 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 生徒の障がいの状況や本人の希望に応じた進路先がほぼ確保されている。 一般企業への就労率は、概ね30%前後で推移しており、全国的にも高い就労率を維持している。 一般就労へのニーズの高まりにより、平成27年度から知的障がい部門6校の高等部において、一般就労を目指す「職業コース」を順次開設している。（H27…2校、H28…2校、H29以降…2校） |
|---|

6. 成果があったこと（改善されたこと）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 代替講師を配置することで、担当教員の就労先や実習先開拓等の進路指導に関する時間が確保された。 実習先の開拓数は増加した。 卒業後のアフターケアの時間が確保され、関係機関とも丁寧な引継ぎができた。 外部人材の活用による職業教育が充実した。 |
|---|

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

| |
|---|
| <p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の障がいの多様化・重度化により職場実習先、就労先の確保が困難になってきている。 分教室のある学校は、職場開拓先等の圏域が拡大し、担当者の時間や旅費不足が生じている。 |
| <p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域事情による職場実習先、就労先の不足。 高等部生徒数の増加や学校所在地と生徒の出身地域が離れることによる対応時間や経費の不足。 |
| <p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用の理解促進。 生徒の就労意欲、スキルの向上。 代替講師の勤務時間や予算の確保。 |

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 関係機関の連携、情報交換等の一層の強化による職場実習先、就労先の確保。 「職業コース」の完全実施による生徒の就労意欲、スキルの向上を図るとともに、就労後のアフターケアの充実。 各地域での推進体制を強化し、対応時間や経費の効率化を検討。 |
|---|

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

| |
|--|
| |
|--|